

視察等報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 穴 戸 稔

下記のとおり、研修が終了したので報告します。

会派代表者氏名 穴戸 稔

経理責任者氏名 山田真一郎

期 間	令和5年10月17日～18日
用 務 先	東京都 日本青年館
用 務	第28回清溪セミナー
概要 テーマ「子どもを守る」 講義「二人は同時に親になる～産後のずれの処方箋」狩野さやか氏（子育てアドバイザー） 育児は一人でできる分量ではない 男女両方の課題であり女性の課題ではない 育児休業制度のしっかりした活用 育児の大変さを男性も認識し共有すること 講義「地域における顔の見える切れ目ない子育て支援」 井上登生 氏（小児科医） 母子手帳交付の時から妊婦の支援体制の充実を行う 困難感のある子どもと養育者の支援には、その家族、その家族と接する機会のある 多種目の仲間からの情報収集 その情報を基に医師、保健師、産科医など専門職と の「顔の見える連携・協働」を図ることが大切 講義「子どもたちのところと命を守るために～学校にアウトリーチするNPO～」 重永侑紀 氏（にじいろCAP 子どもNPOセンター福岡代表理事） 組織（学校、教育委員会、自治体）への働きかけを行うことで、児童の虐待防止活 動に大きなかかわりを持つ方法を進めている 子ども問題への対応プログラムを 提起 講義「こども家庭庁の創設とこども政策」 山田太郎 氏（参議院議員） ・「子どもが死なない国にしたい！」との想いで、こども家庭庁が創設された。 ・どのような状況でも育児と仕事を両立できる社会環境の整備が重要である。 ・地域の子どもたちを育てるには中学や高校時代から企業も含めて地域がどれだ	

け子どもたちを大事にしていくかが重要である。

講義「子どもを本気で応援すれば、まちは元気になる」 泉 房穂 氏（元明石市長）

- ・「政治は誰がやっても同じではない！」
- ・子どもを核としたまちづくりに向けて、「全ての子どもたちをまちのみんなで本気で応援すればみんなが幸せになる」を理念にさまざまな取り組みをされていた。
- ・児童手当は、申請者を子ども本人にし、本人の口座を開設した。
- ・予算についても 国、県に頼らず、市単独で状況に合わせスピードスピード感を持って取り組まれていた。

講義「ヤングで終わらないヤングケアラー」 仲田海人 氏（作業療法士）

自身のケアラー体験が作業療法士として歩み出し独立の道を選択

大人の対応が変わらなければ変わらない 支援のネットワークや支援の選択、子どもの権利を守るために支援につなげられる専門のコーディネーターが必要

講義「すべての子どもの成長と子育てを支えるためには」 野田聖子 氏（衆議院議員）

こども家庭庁は、妊娠して子ども手帳をもらった時から、18歳を過ぎるまでも切れ目ない支援をしていく。また、こどもの逃げ場をつくるなど、家庭庁設立に向けて議員が構想してきたことを分かりやすく聞くことができた

参考とすべき事項

元明石市長の泉房穂氏の講義は大変インパクトがあった。こども政策を最重点施策として取り組む力の入れようとリーダーシップ。

子育て世帯の転入で人口増、その住環境整備で民間によるインフラ整備増で公共事業に頼らない条件整備が促進される 市民満足度の向上 好循環の醸成が図られた

視察・研修報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 保 実 治

下記のとおり、視察・研修が終了したので報告します。

会派代表者氏名 穴 戸 穂

経理責任者氏名 山 田 真一郎

期 間	R5年10月7日(火)～R5年10月18日(水)
用 務 先	清溪セミナー実行委員会
用 務	第28回清溪セミナー
概要及び所見 (目的, 参考に すべき事項, 提 言, 活用策等)	1. 子どもを守る ◦4月に「子ども家庭庁」が発足したが、児童虐待は、ますます増えている。 ◦国・地方自治体、関係者等の議論の場。 2. 所見 ◦講義「2人は同時に親になるー」 ◦男性の産休・育休取得について、積極的に求められる。 ◦講義Ⅱ「地域における顔の見える切れ目ない子育て支援」 ◦「障がい者(児)の生涯をサポートできるシステムを。」 ◦講義Ⅲ「子どもたちのこころと命を守るために」 ◦ヤングケアラーの実態把握を ◦自治体間での格差のせせせ。

視察・研修報告(復命)書

三次市議会議長 様

報告者氏名 山村 恵美子

下記の通り、視察・研修が終了したので報告します。

会派代表者指名 宍戸 稔

経理責任者氏名 山田 真一郎

期 間	2023 年10月17日(火) ~ 2023年10月18日(水)
用 務 先	清溪セミナー実行委員会 (日本青年館ホテル)
用 務	第28回清溪セミナー
概要及び所見	概要 テーマ「子どもを守る」 今年4月にこども家庭庁が発足したが、児童虐待は右肩上がりで増え続け、1週間に一人の子供の命が奪われている。子どもを守るのは大人の責任。責任を果たすため、どう動くべきか、国の動き、地方自治の現場のみならず、医療や福祉の現場で起きていることなどを知り、考え行動するためのセミナー。こども家庭庁発足の中心、山田太郎参議院議員、障がいのあるお子様の母、野田聖子衆議院議員、そして子どもをキーワードに姿勢を大きく変えた泉房穂全明石市長等講師陣を迎え、講演を聞くことだけでなく、情報交換の場で、本音で議論する研修会。 所見 10月17日 講義Ⅰ「二人は同時に親になる~『産後』のズレの処方箋」 講師:狩野 さやか 氏(子育てアドバイザー・ライター) 子育ての現状は母親に多くの負担を強いている。男性の参加を促す制度の充実が必要。男性の産休・育休取得についても積極的配慮が求められる。 講義Ⅱ・「地域における顔の見える切れ目ない子育て支援」 講師:井上 登生 氏 (小児科医) 福祉・医療サービスが子育て支援に関してニーズを的確に捉えきれていない。障害児・者について個々の子供が生涯を終えるまで社会的サポートを継続できるシステムが必要。 講義Ⅲ「子どもたちの心と命を守るために

～学校にアウトリーチするNPO～」

講師:重永 侑紀 氏(にじいろCAP 子どもNPOセンター福岡代表)

現在、ヤングケアラーの実態把握が十分でなく、どのような支援に結びつけていくか、自治体ごとに支援体制に開きがあり、格差が広がっている。客観的に見てヤングケアラーであると認識できる当事者へのアプローチが必要。学校にお任せではなく、更に相談体制の強化が望まれる。

講義Ⅳ「こども家庭庁の創設とこども政策」

講師:山田 太郎 氏(参議院議員)

異次元のこども対策に真っ向から取り組むためのこども家庭庁創設。施策に関しては今後予算化。

視察・研修報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 重信 好乾

下記のとおり、視察・研修が終了したので報告します。

会派代表者氏名 矢野 穂

経理責任者氏名 山田真一郎

期 間	令和5年10月17日（火）～令和5年10月18日（水）
用 務 先	日本青年年館（東京）ホテル8F カンファスルーム
用 務	清溪セミナー
概要及び所見 （目的、参考にすべき事項、提言、活用策等）	今回は「子どもを守る」がテーマで様々な専門家が子育て支援について研修いたしました。 特に印象に残っている研修は 前明石市長 泉氏の子どもを本気で応援する、それは元気にあることで、本市の子育て支援に参考にしていきたいと思います。

視察等報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 山田 真一郎

下記のとおり、視察が終了したので報告します。

	会派代表者	宋戸 稔	経理責任者	山田 真一郎
視 察 議 員	山田 真一郎			
期 間	2023 年 10 月 17 日（火） ～ 2023 年 10 月 18 日（水）			
視 察 先	日本青年館ホテル 8 F カンファレンスルーム「イエロー」			
視 察 用 務	第 28 回清溪セミナー			
視察先対応者	清溪セミナー実行委員会			
概要及び所見	講義 1 二人は同時に親になる～「産後」のずれの処方箋 講師 狩野 さやか （子育てアドバイザー・ライター） 講義 2 地域における顔の見える切れ目ない子育て支援 講師 井上 登生 （小児科医） 講義 3 子どもたちのこころと命を守るために ～学校にアウトリーチする NPO～ 講師 重永 侑紀 （子ども NPO センター福岡代表理事） 講義 4 こども家庭庁の創設とこども政策 講師 山田 太郎 （参議院議員） 講義 5 子どもを本気で応援すれば、まちは元気になる 講師 泉 房穂 （全明石市長）			

講義6 ヤングで終わらないヤングケアラー

講師 仲田 海人 (作業療法士)

講義7 すべての子どもの成長と、子育てを支えるためには

講師 野田 聖子

昭和から平成から令和と、時代の移り変りとともに変化する子育ての現状について改めて知ることが出来ました。

特には、核家族化による子育てや生活の厳しさ、またそのことによるヤングケアラー問題が印象に残りました。

子どもが弟や妹の子守りをすることや、家事の手伝いをする実例があがっていました。

確かに、する子としない子があり不平等とは思いますが、現状を考えると疑問も残りました。

今回だけでなく、また違った方向からの検証も必要と感じたので、引き続き調査してみるつもりです。